

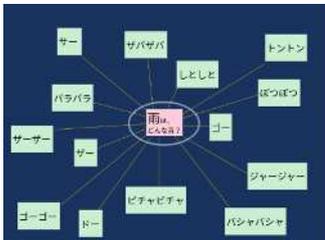
〈事例1〉

【題材名】 2学年国語「雨のうた」

【内容】 ロイロノートを使用して、音読発表会をする。

【使用アプリ】 ロイロノート

【事例紹介】 まず、ロイロノートのシンキングツールを使い、雨を表す音の言葉についてのイメージをふくらませる。次に、詩を読んで、どのような雨の様子を感じたかを話し合う。そして、グループで工夫して音読したものを発表すると同時に録音し、共有ノートで音読を聞いての感想を書く。最後に、通常ノートで詩の続きを作り、提出する。



【解説】 音読を録音すると、自分の音読を客観的に聞くことができる。また、読み手も聞き手も繰り返し聞き返せる利点がある。ロイロノートは容易に共有できるので、様々な考えに触れることができ、より深い学びが期待できる。

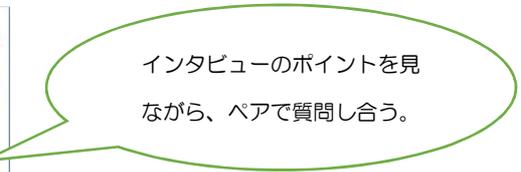
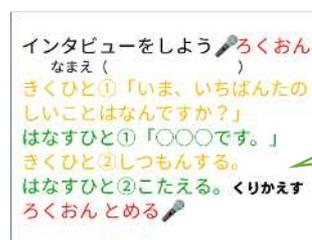
〈事例2〉

【題材名】 1学年国語「ともだちのこと、しらせよう」

【内容】 ロイロノートを使用して、質問内容を録音する。

【使用アプリ】 ロイロノート

【事例紹介】 聞き手が「今、一番楽しいこと」を聞いた後、どんなことを知りたいのかを考え、友達に質問し、感想を伝え合う。そのインタビューし合う様子をロイロノートで録音し、提出する。



【解説】 ロイロノートに質問内容を録音することで、後から友達を紹介する文章を詳しく書くことができる。上手に会話できたペアの録音を全体で紹介し、会話や質問の仕方のよさを共有できる。

(教育委員会主幹講評) 小学校低学年でも操作がしやすいロイロノート。ロイロノートの録音、動画撮影の機能を有効活用した2事例の報告です。自分の音読を客観的に聞いて読み方の工夫を確認したり、インタビュー内容を聞き返して、資料作成をしたり、個々の学びを共有することが容易にできロイロノートの活用で学びのスタイルや深さが大きく変わってきました。小学校ではロイロノートは学びのツールとして定着し始めています。先生方の工夫で、更なる有効活用の事例に期待しています。